

成果の説明書

(氏名) 溝口 哲郎	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】 (学術論文)</p> <p>・アジア開発銀行研究所所長吉野直行氏、早稲田大学政治経済学部助教の Farhad Taghizadeh-Hesary 氏との共同論文を 2 本刊行した。本論文は、これまで財政の持続可能性を測る指標が国債の供給サイド（政府予算制約式）のみから導出されており、国債の需要サイドの議論が無視されてきた。そこで上記の論文では国債の需要サイドを考慮に入れた経済モデルを導出し、そのことを日本の実証研究分析を踏まえて財政の持続可能性について分析を行った。またアジア開発銀行研究所の Working Paper として刊行された論文は、2017 年に発表された Japan's Lost Decade (Springer) の理論モデルをもとに、日本とギリシャのケースとの比較を行ったものである。これらの研究については、高崎経済大学からの競争研究基金（2019 年度分）の研究活動の一環である。</p> <p>それぞれの論文の URL は、</p> <p>・Yoshino, N., T. Mizoguchi., and F. Taghizadeh-Hesary (2018): "Fiscal Policy Conditions for Government Budget Stability and Economic Recovery: Comparative Analysis of Japan and Greece," ADBI Working Paper Series, No. 851</p> <p>https://www.adb.org/publications/fiscal-policy-conditions-government-budget-stability-economic-recovery-japan-greece</p> <p>・Yoshino, N., T. Mizoguchi., and F. Taghizadeh-Hesary (2019): "Optimal Fiscal Policy Rule for Achieving Fiscal Sustainability: A Japanese Case Study," <i>Global Business and Economic Review</i>, Vol.21, No.2, pp. 156-173.</p> <p>https://www.inderscienceonline.com/doi/abs/10.1504/GBER.2019.098082</p> <p>【研究報告・学会&各種セミナー参加】</p> <p>・2018 年 7 月 3 日に本学で開催されたヴロツワフ経済大学との国際シンポジウム "Economic Interrelationship between Asia & Europe" にて、The Economics of Corruption: Causes, Consequences and Anti-corruption Strategies という表題で、腐敗の研究について、報告を行った。</p> <p>・2018 年 9 月 9 日に学習院大学で行われた日本経済学会秋季大会で吉野直行氏・Farhad Taghizadeh-Hesary 氏との共同論文 "Fiscal Policy Conditions for Government Budget Stability and Economic Recovery: Comparative Analysis of Japan and Greece" を報告・発表した。</p> <p>・2019 年 3 月 15 日に東京大学で行われた財政・公共ワークショップで研究報告を行った。研究報告は Does Efficiency Wage Assuage Corruption? という表題で、開発途上国で新規ビジネスを行う予定の企業がビジネスの許認可権を持つ官僚と賄賂の額を交渉する理論モデルを構築し、賃金額が賄賂を減少させることを、経済理論モデルを用いて説明した。この研究についても高崎経済大学 2019 年度競争的研究資金のサポートを得ている。</p> <p>http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/workshops/public/public.html</p> <p>・2018 年 6 月 9 日・10 日に開催された日本経済学会 2018 年度春季大会（兵庫県立大学）に参加。自分の研究に関連する研究報告を聴講し、情報交換をほかの研究者と行った。</p>	

た。

【教育活動】

・2018年度前期に開講される **Introductory Economics** の授業でアクティブラーニングを行うため、センゲージラーニングと交渉をし、学生の授業理解のための **e-learning** システムの導入を行った。また基礎科目「市場と経済」についても、マンキューe-learningのプラットフォームの導入について、東洋経済新報社と交渉のサポートを行った。

・2018年6月14日に開催された学術講演会の講師である京都府立大学の佐藤洋一郎先生を推薦し、「和食の位置づけを考える ―ユーラシアのなりわいのフィールド研究から―」をご講演いただいた。

・2018年11月16日に行われた学生向け講演会にマレーシア観光局の徳永誠氏をお招きし「アジアの時代」という演目でご講演いただいた。

・2018年11月17日に東洋大学平瀬ゼミ・隅田ゼミと日経ストックリーグに関する合同ゼミナールを行い、報告を行った。

・2018年12月8日に、本学藤井ゼミ、法政大学高橋ゼミ、横浜市立大学太田ゼミ、東洋大学隅田ゼミとの合同インターゼミナールを行った。本学はストックリーグの結果を利用しながら発表した。

・2018年12月12日に山内太地氏（大学イノベーション研究所所長）を推挙・招聘し、FD研修を行った。

・2018年11月、2019年3月に行われたカナダ留学フェアに参加し、カナダでの留学先・提携校に関する情報収集および交渉を行った。

【地域貢献活動】

・2018年10月18日に行われた地域科学研究所の公開講座で市民向けに「腐敗の経済学」の表題で90分の講義を行った。

2 その他の事項

対外業務として、株式会社リアルワールドゲームズのアドバイザーに就任し、経済学的な知見をもとに、様々なアドバイスをを行っている。対内的には入試制度改革委員として、センター試験後の新テストに関する議論を執り行った。

3 次年度以降の計画・抱負

腐敗・汚職は、市場メカニズムとは異なる賄賂などの金銭的インセンティブによって、資源配分の歪みを通じて一国の経済厚生に悪影響を及ぼす。そこで今年度も継続して、過去の研究蓄積をベースに腐敗・汚職の社会に対する影響について経済厚生の評価から明らかにする。特に租税回避と腐敗の問題は国家財政の悪化をもたらすため、その可視化は急務である。そこで財政の持続可能性に関する議論についても、上記の腐敗や租税回避の問題と絡めて、分析を行う計画である。

さらに位置情報ゲームを利用した社会行動について、企業が発行するトークンからの通貨発行益の源泉は何かを経済学的に分析していく予定である。これはその他の事項でも取り上げたリアルワールドゲームズとの共同研究から、実際のフィールドデータを取りながら、消費者の属性を分析し、トークンの源泉となる価値の裏付けを行いたい。